

資源の有効活用の取り組み

基本的な考え方

ミネベアグループの製品に欠かせない金属、プラスチックなどの原材料や、エネルギー源となる石油、天然ガスなどは、その使用量に限りがあります。また、電子機器製品に不可欠なレアアース（希土類元素）は、産出国に限られるため、輸出制限などを受けやすくなっています。

当社グループでは、事業活動の継続のためには資源の有効活用が重要であると考え、経営的な視点から取り組みを行っています。

2013年度の取り組み結果

2013年度にミネベアグループ全体で使用された主な原材料は、鋼材:約87,800トン、樹脂:約8,200トンで、合計量は2012年度と比較して、約23%増加しました。

一方、当社グループから社外に排出された後、最終処分（埋立）された廃棄物量は4,564トンでした。2012年度から比較した場合、2013年度は234トンの増加となりました。

また、当社グループではタイや中国の量産工場において、工場内で発生した排水を可能な限りリサイクルし、工場外に排出しない「工場排水ゼロシステム」を運用しています。2013年度の当社グループにおける工場排水量は697,000m³で2012年度と比較して87,000m³の減少となりました。

事業所における取り組み

● サーマルリサイクルへの参加（米子工場ほか）

米子工場から排出される廃プラスチック類は、7～8年前までは限られた素材のみが再生材原料としてリサイクルされていました。その後RPF※原料として回収されるようになり、現在ではほぼ全量が委託先の施設でRPFとして生まれ変わり、製紙工場の発電ボイラーで再利用されています。

2013年度は年間約41トンの廃プラスチックを排出しましたが、工場内での分別基準を設け取り組みを進めていく中、98.1%をRPF原料として送り出すことができました。なお、廃プラスチック類のRPF原料化は、軽井沢工場や浜松工場から搬出される廃プラスチックからも行っています。

※RPF(Refuse Paper & Plastic Fuel):

廃プラスチック類と再生困難な古紙を主原料とした固形燃料。RPFは石炭や石油に劣らない高い発熱量を持ち、化石燃料の代替品として需要が増加しています。

今後の目標・課題

2014年度の廃棄物の最終処分量目標は、再集計結果も踏まえ、4,850トン以下として取り組みを進めます。また、現在、埋め立て処分されている廃棄物の性状調査や市場分析などにも取り組み、今後よりいっそうの削減を目指します。

▶ 廃棄物処理実績（2013年度実績）

